

総合周産期母子医療センター（小児科部門）

1. スタッフ（2021年4月1日現在）

部 長（准教授） 矢田ゆかり
 （教授） 河野 由美
 医 員（助教） 鈴木 由芽
 下澤 弘憲
 小森 咲子
 相楽 昌志
 シニアレジデント 3名 小児科と兼務。

2. 新生児集中治療部の特徴

栃木県総合周産期センター二施設のうちのひとつとして、県で出生するハイリスク新生児を二分する形で診療している。入院する新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。

・認定施設

日本周産期・新生児医学会基幹認定施設

・認定医

日本小児科学会認定指導医 矢田ゆかり
 日本小児科学会専門医 矢田ゆかり 他5名
 日本周産期新生児医学会（新生児）専門医
 矢田ゆかり 他2名
 日本周産期新生児医学会（新生児）指導医
 矢田ゆかり

3. 実績・クリニカルインディケータ

1) 年間入院患者数

349名（再転科・転入8名を除く）。院内出生321名（初診時から外来観察37名、母体搬送40名、母体外来紹介244名）、院外出生28名（病院等からの搬送23名、自宅分娩5名）。

2) 人工呼吸器管理数・率

挿管人工呼吸管理は、108例/349例（30.9%）で行った。なお、CPAPなどの非侵襲的人工呼吸管理は38例/349例（10.9%）。

3) 生存率・死亡数など

出出生体重（BW）別、在胎週数（GA）別入院数および死亡数を示す。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	1	1	0	100
23	2	1	1	50
24	2	2	0	100
25	0	0	0	-
26	2	2	0	100

27	3	3	0	100
28	3	3	0	100
29	8	8	0	100
30	11	11	0	100
31	8	7	1	87.5
32	6	6	0	100
33	19	19	0	100
34	35	34	1	97.1
35	22	20	2	90.9
36	33	33	0	100
37以上	194	192	2	99.0
計	349	342	7	98.0

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
<500	1	1	0	100
<1000	12	11	1	91.7
<1500	33	32	1	97.0
<2000	58	55	3	94.8
<2500	78	78	0	100
≥2500	167	165	2	98.8
計	349	342	7	98.0

4) 死亡症例内訳

在胎35週	4674g	胸水貯留、胎児水腫、肺形成不全、肺高血圧症
在胎35週	3249g	胸水貯留、胎児水腫、肺形成不全、肺高血圧症
在胎37週	1621g	18トリソミー、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症、心不全
在胎23週	599g	重症新生児仮死、小脳出血、脾出血
在胎39週	1862g	18トリソミー、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、肺高血圧症、心不全
在胎31週	1021g	congenital alveolar dysplasia、肺高血圧症
在胎34週	1597g	13トリソミー、両大血管右室起始症、心室中隔欠損症、大動脈縮窄症

5) 先天性心疾患児入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例は28例。PICU転科11例、こども医療センター小児科転棟2例、NICUから退院11例、自宅近くへの転院2例、NICU入院中死亡2例。

6) 多胎入院数

86名 (24.6%)。

7) 外科症例数 (手術例のみ)

小児外科14例。小児脳神経外科 1 例、小児耳鼻咽喉科 1 名。

8) 他院への搬送

36例。全例状態安定後に搬送元等の病院に転院。
うち 4 例は養育環境調整を主目的とした転院。

4. 2021年の目標・事業計画等

総合周産期母子医療センターとして、産科部門との連携を一層充実させ、より重症な症例に対応する。また県内の総合周産期センターである獨協医大、および関連の地域周産期センターと協力・連携しながら、栃木県、北関東地域の周産期医療の充実を図る。さらに周産期・新生児医学会認定施設として、専門医の育成に力を注ぐ。